

北海道教育大 豊村 洋子

1. ソビエトにおける教育と生活の結合を、〈家政〉との関連づけでみたいとおもう。
2. 学術雑誌、新聞等に掲載された、ソビエト教育にかんする論説から考察した。
3. 1968年12月、ソビエト最高会議は、「学校と実生活の結びつきの強化と……」の法律を採択している。ソビエトにかぎらず、こんにちの社会主義諸国においては、国民教育制度を規定する根本原理に、学校と生活の結合をかかげているようである。この原理は、肉体労働と頭脳労働の深い溝を除き、未来社会実現の荷い手を育成するものとして、学校教育のなかにとりいれられてい

る。

昨年の中ソ教員大会において、ブレジネフは、このことにふれて、人間の肉体的な完全さが高い教養と結合し、豊かな文化が労働愛と結びつく……ような調和のとれた個性の発展を期待し、そのための基礎は、子どものうちから、家庭と学校で築かれるとのべている。

近代科学の発展は、ソビエトにおいてもプログラム内容の現代化をもたらしている。労働教育（＜家政＞を含む）も、実生活の準備にむけての実践が、生活の知識の質を高める方向で教育を強化することが必要とされている。このため、科学の基礎の習得が強調され、知識を生活に適応する能力を育成し、実際の生活への準備をはかる。労働教育のみならず、学校教育の当面の重要な課題として、教育と生活の結合は、科学の基本の教授という課題の解決をもたずさえて提起されている。